

第4章 地球温暖化防止に向けた具体的な取組

1 施策の体系

本計画では、第2次計画の施策体系を踏まえ、以下の3つの基本方針と8つの基本施策を掲げ、具体的な取組を進めて行きます。

基本方針	基本施策
1 緩和策の推進	1-1 省エネルギーの推進
	1-2 再生可能エネルギーやバイオマスの利活用推進
	1-3 脱炭素なライフスタイル・ビジネスの普及促進
	1-4 脱炭素社会の実現に向けたまちづくりの推進
	1-5 地域のみどりの保全・創出
2 適応策の推進	2-1 災害に強い暮らし方の普及促進
	2-2 安心・安全に暮らせるまちづくりの推進
3 公共施設での率先した取組推進	3-1 地球温暖化対策実行計画(事務事業編)の推進

●指標

指標名	現状値	目標値
デコ活など省エネ行動の促進に関する啓発回数	-	12回以上/年 ^{※1} (R12)
薪ストーブ導入の補助件数(累計)	165件(累計) (R5)	300件以上(累計) ^{※2} (R12)
太陽光発電の設備容量(累計)	42,020 kW(R4)	56,200 ^{※3} kW(R12)
事務・事業における温室効果ガス排出量	10,474.2 t-CO ₂ (H25)	5,222.8 ^{※4} t-CO ₂ (R12)

※1：市のHPや広報なんたん、市の公式LINEなどを通じて月1回以上啓発を行うことを想定

※2：第2次計画を踏襲（過去実績より目標値を設定）

※3：自治体排出量カルテ（環境省）より把握。34ページの太陽光発電導入目標と整合

※4：第3次南丹市地球温暖化対策実行計画（事務・事業編）の目標値と整合（H25年度比50%削減）

2 具体的な取組

基本方針1 緩和策の推進

施策1-1 省エネルギーの推進

- 事業者を対象に省エネ設備導入への補助支援を行い、事業活動に伴うエネルギー使用量削減につなげます。
- Web 会議の活用やペーパーレス化、電子申請など DX の普及に向け情報を発信します。
- ZEH（ゼッチ：ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）や ZEB（ゼブ：ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）、スマート・エコハウスの情報を発信し、導入を進めます。
- 既往住宅・建物の断熱化に関する情報を発信し、導入を進めます。
- 電力量計スマートメーターやデマンド監視装置など「電気見える化」に役立つ情報を発信し、普及を進めます。

施策1-2 再生可能エネルギーやバイオマスの利活用推進

- 市民を対象に、太陽光発電や蓄電池導入への補助支援を行い、再エネの導入を促進するとともに、余剰電力を公共施設で利用することや南丹市産材を活用した薪ストーブの利用など、支援を通して資源の地産地消に努めます。
- 二酸化炭素排出係数が低い（またはゼロの）環境に配慮された電力やガスへの切り替えに関して情報を発信します。
- 事業所の屋根や駐車場などを活用した自家消費型の太陽光発電の導入に向けた支援を進めます。
- 市民や事業者、大学研究機関、関係団体などと連携して、本市の特性を活かしたバイオマス（木質バイオマス、バイオディーゼル燃料、バイオガス発電に伴う副産物など）の利用を進めます。
- 八木地域におけるバイオマス資源化施設について、環境学習の場や災害時のエネルギー供給施設として引き続き活用を図ります。

施策1-3 脱炭素なライフスタイル・ビジネスの普及促進

- デコ活を普及啓発し、市民や事業者の意識啓発に努めます。
- 地球温暖化に関する最新の情報や環境に配慮した製品・サービス等に関する情報を発信します。
- エコドライブや次世代自動車に関する情報を発信し、移動に伴う温室効果ガス排出削減につなげます。
- 近距離移動の際、自動車移動から徒歩・自転車などの利用を呼びかけます。
- Web 会議やテレワークを普及啓発し、通勤や移動に伴う温室効果ガス排出削減につなげます。
- マイボトル、マイバッグの利用や分別、エシカル消費に関する情報を発信します。
- 食品ロス削減に関する情報を発信します。

施策1-4 脱炭素社会の実現に向けたまちづくりの推進

- スマート・エコハウスや蓄電池の情報を発信し、導入を進めます。
- 学校教育や出前講座などを活用し、地球温暖化防止に向けた学習を推進します。
- 省エネ・再エネ設備の導入や森林管理等による温室効果ガスの排出削減・吸収量をクレジットとして認証する制度の活用を検討します。
- 府や近隣自治体と連携し 2050 年までに温室効果ガス排出量実質ゼロを目指すまちづくりに向けた体制を構築するとともに、排出量ゼロに向けて何が出来るかを検討し、段階的に実践します。

施策1-5 地域のみどりの保全・創出

- 二酸化炭素の吸収源となる森林について、植林、保育及び間伐を進めます。
- 地域の豊かな木質バイオマスを、木材や木質チップ、薪などとして積極的に利用します。
- 緑のカーテンづくりなどにより、まちなかのヒートアイランド対策を進めます。

基本方針2 適応策の推進

施策2-1 災害に強い暮らし方の普及促進

- 熱中症の増加を防ぐため、予防・対処法の普及啓発を進めます。
- 大雨や台風の増加による水害、土砂災害の頻発化・激甚化に備えて、防災グッズやハザードマップの普及啓発を進めます。
- 暑さに強い農作物などの作付けや規格外作物の利用に向けた啓発を進めます。

施策2-2 安心・安全に暮らせるまちづくりの推進

- 気候変動の現状や将来への影響について学ぶ機会を設け、市民や子どもたちの意識啓発に努めます。
- 熱中症の増加を防ぐため、クーリングシェルターを創出・利用を促進します。
- 大雨や台風の増加による水害、土砂災害の頻発化・激甚化に備えて、府などと連携して防災拠点の整備や機能の充実を進めます。
- 浸水被害の抑制や雨水の活用を進めるため、雨水タンクの導入を促します。

基本方針3 公共施設での率先した取組推進

施策3-1 地球温暖化対策実行計画(事務事業編)の推進

- 地球温暖化対策実行計画(事務事業編)に基づき、率先して公共施設に省エネルギー設備や高効率設備の導入を進めます。
- 太陽光発電が設置可能な公共施設において、再生可能エネルギーの導入を進めます。
- 温室効果ガス排出量の多い施設については重点的にエネルギー削減対策を進めます。
- 職員を対象に、環境関連の情報提供や、定期的なセミナーの開催に努めます。

市民・事業者の具体的な取組例

市民

- 日常生活の中でデコ活を実践しましょう。
- 家電などの更新や新規購入する時は、省エネルギー性能の高い製品を選びましょう。
- 家の建て替えや新築する時は、LED 照明や二重サッシの窓、太陽光発電、蓄電池の導入など、ZEH や断熱性能の高い省エネルギー型の住宅を検討しましょう。
- 近くに出かける時は徒歩や自転車の利用、また遠くに移動する時は公共交通機関の利用に努め、移動にかかる温室効果ガスを減らしましょう。
- 地域のバイオマス活用に向けて生ごみの堆肥化や、家畜排せつ物由来の堆肥の利用、薪ストーブの導入など出来ることから実践しましょう。
- 夏場は緑のカーテンづくりに努めましょう。
- 適応策について正しい知識を学び、日頃からハザードマップを確認し、避難場所を確認するなど出来ることから取り組みましょう。

事業者

- クールビズやウォームビズ、環境マネジメントシステムの取得など、環境にやさしい事業活動を行いましょう。
- 設備の更新や新規購入する時は、省エネルギー性能の高い設備の選択や再生可能エネルギーの導入に努めましょう。
- 事務所の建て替えや新築する時は、LED 照明や高効率給湯器、太陽光発電、蓄電池の導入など、ZEB や断熱性能の高い省エネルギー型の建物を検討しましょう。
- 脱炭素につながる製品やサービスの提供・利用に努めましょう。
- 通勤や出張の際は公共交通機関の利用に努め、移動にかかる温室効果ガスを減らしましょう。
- 敷地内などの緑化に努めましょう。
- 適応策について正しい知識を身に付け、出来ることから対策を実践しましょう。